

京都検定講演会講師による公開テーマに関連する‘よもやま話’。しっかり学習を深め、京都検定合格を目指しましょう。

第19回 京都検定 1級公開テーマ「京の名木」 「庭木として愛される『松』は名木と逸話の宝庫」

【講師】

山村 純也
株式会社らくたび
代表取締役



今回は京都に残る名木の中でも「松」をテーマに取り上げてみよう。まずは本年の京都検定のポスター、チラシに採用されている宝泉院の「五葉松」が挙げられる。樹齢700年の巨木であり、近江富士をかたどったという見事な枝ぶり。そして盤垣園と名付けられた庭園は「額縁庭園」としての評価も高い。参拝者はお抹茶とお菓子をいただきながら、心落ち着く時間を過ごすことができる。

次に挙げるのは善峯寺の「遊龍松」。こちらは国の天然記念物指定の名木で、樹齢600年。西国三十三カ所の二十番目の札所である善峯寺は、春の桜と秋の紅葉がどちらも名所に上げられるほど見事だが、この遊龍の松は一年を通して青々とした色彩を境内に放ち、その雄大さは訪れた参拝者を感嘆させている。



宝泉院「五葉松」がビジュアルの京都検定チラシ



善峯寺「遊龍松」

最後に「一乗寺下り松」。平安中期には一乗寺という天台宗寺院があったが南北朝の動乱以後に衰えて廃絶し、地名として残った。この地にあった松の下で、江戸初期の剣客、宮本武蔵が吉岡一門数十人と決闘したという伝説が残されている。現在の松は5代目となっているが、初代の松の切り株は、東の山手に鎮座する八大神社の社前に保存されており、横には若々しい宮本武蔵の銅像も安置されている。

名木には樹齢の「長さ」という価値があり、長ければ長いほど雄弁に歴史を物語ることができる。一方で代替わりしても脈々と「受け継がれてきた」価値もある。惜しくも枯渇したり、災害によって途絶えたりすることがあっても、その木に託された思いや、愛着によって、人の手が加わり次世代に継承されてきた名木も多い。こういった名木に秘められた逸話を学ぶことにより、より感動を深めてもらいたい。

いよいよ京都検定直前！ 京都検定YouTubeで公開テーマ対策！

京都検定YouTubeでは、公開テーマに関する動画を公開しています。今回の「松」に関する内容ははじめ、各級のテーマを紹介しています。試験直前の対策に、ぜひご覧ください。

京都検定YouTube ▶



※京都検定では『公開テーマ』に関する問題が各級10問出題されます。

第19回(12月12日施行) 3級「京を見守る銅像となった歴史人物」 2級「京の通称寺」 1級「京の名木」

※「京都・観光文化検定試験」「京都検定」及びそのロゴマークは京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。